

事業所名

川崎市南部地域療育センター

支援プログラム（通園クラス）

作成日

6年

10月

1日

法人（事業所）理念	①充実した質の高いサービスの提供			②地域に根ざした施設運営		③人材の確保・定着・育成		④法人の経営基盤の整備		
支援方針	①お子さんと保護者の方の支援を両輪と考えます。②個別的配慮のもと集団プログラムを中心に遊びを通し社会性やコミュニケーションの力を育てます。③お子さんの発達や特性を理解し、よりよい対応を保護者の方と共有しながら生活リズムや生活習慣を築き健康に過ごせるようお子さんの状況にあわせた基本的なスキルの獲得を目指します。④お子さんの持つ力を活かし様々な活動の中で経験を積み重ねる支援をします。⑤大人との信頼関係を軸にお子さん自身が表出や発信ができるよう支援します。									
営業時間	10時	0分	14時	0分	まで	送迎実施の有無	あり	なし		
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の健康状況を把握するとともに、保護者と連携し生活リズムを整えることや、健康に過ごせるよう活動を計画し取り組みます。 ・お子さんの機能に合わせた食事提供を関係する専門職と確認しながら口腔機能に合わせた食形態の提供と機能に併せた咀嚼、嚥下で食事がとれるよう支援します。（その際には、本人、介助する大人も安心、安定した姿勢で食事がとれるよう専門職と連携します） ・偏食への対応はお子さんの状況を家庭との連携の中で把握し無理のないよう支援します。センターで給食の提供を行うことは様々なメニューを視覚、臭覚、触覚で経験することも支援として取り組みます。 ・着替えはお子さんひとりひとりの年齢や状況に応じ目線に向けて、声掛けで自分の行為に気づくことや協力動作を引き出す、増やす、自立に向けて等の取り組みを行います。 ・排泄自立の取り組みはお子さんの状況を大人が先ず知り特性を踏まえ場面になれること、排尿間隔をスモールステップで取り組みます。 ・大人の声掛けや促し、自分で気づき取り組むなど、達成目標に応じた対応（声掛け、視覚的な掲示、構造化等）で取り組みます。 ・物を見ることから、物や状況に合わせた体や手指の使い方を活動のなかで取り入れ、生活に必要な基本的技能の向上に繋がるようにします。 								
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善および習得、筋力の維持向上を図ります。 ・持っている視覚、聴覚などの感覚を十分に活かせるよう必要に応じた工夫を行い遊びを通し支援を行う。また眼鏡、補聴器などの補助器具を効果的に活用し支援します。 ・歩く、走る、くぐる、飛び、のぼる、さらにぶら下がることや道具を使う縄を飛びなどを通し姿勢を保持する、上肢下肢の運動した動きの獲得、経験を遊びの中で経験します。 ・お子さんの状況に合わせた運動あそびや親子遊びの中で、意識して身体を使うこと（粗大運動）を通し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用できるように支援し姿勢保持や力加減、バランス感覚などの向上を促します。 ・視覚、聴覚、固有感覚などを保持する感覚を統合的に経験、活用することで身体の機能だけではなく集中する力、持続する力、コミュニケーションの能力も繋がります。 ・楽しく活動ができるよう屋内、戸外の活動を取り入れ場面や季節に合わせた活動を行い経験を広げていきます。 								
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じた視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用し必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵、写真、道具を使い認知機能の発達を促す支援を行います。 ・活動の中で情報を理解しやすいように視覚化（写真、カード、等）用いて見える化しメッセージを自ら選択肢行動につなげられるよう支援します。 ・活動プログラムを視覚的に示し、（構造化し）、見通しを持ち、安心して行動できるように環境設定をします。 ・集団遊びでは、ルールを言葉と視覚的に示す工夫し理解し、理解して意欲的に取り組めるように支援します。さらに「またやりたい!」「少し難しそうだけどやってみよう!」という意欲に繋がるよう、自ら取り組むことを大切に、「できた!」「やった!」という成功体験が積めるようにも支援します。 ・活動参加は「見る参加」「部分的参加」「大人と一緒に参加」も肯定的にとらえ、スモールステップの支援をします。 								
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・人に伝えようとする意欲を大切にします。要求と共に拒否の気持ちも大切にします。 ・言葉、できる表現方法（発声、身振りなど）を大人が受け止め応答することやより良い表現方法を伝えます。不適切な表現についてもより良い表現方法の見本を示します。 ・できた時にはそれを受け止め人に伝え、伝わった経験を増やします。（そのことで望ましくない言動の減少にも繋がります。） ・活動の中に相手を意識することや、感情の言語化、表現の仕方を伝え個々に応じた表出の場面をつくります。 ・表出を促す場面は、自由遊びを含む全てのプログラム場面で想定されており、その都度、望ましくない言動をそのままにせず、その場で望ましい言動を伝え、促し、お互いに心地よいコミュニケーションが取れるよう、繰り返し丁寧に関わります。 								
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる大人との関係性を作ることを見本とします。そこから周りの状況に気づき周囲の人や物への興味、関心、関わることの支援をします。 ・集まりや活動の中で見本をみせながら表現の方法や相手との関わり方を知り、状況に合わせた行動で社会性や人との関わる経験の支援と向上をめざします。 ・お子さんの特性を理解しひとりひとりに合わせた声掛け、行動への支援を行う中で気持ちや感情の調整ができるように支援します。 ・あつまりや集団遊びの中で、ルールや順番の理解など、周りに状況に気づき行動につながるよう支援します。 ・自由遊びでは、場や物の共有をする中で、対大人・対友だちとやり取りする機会を設定し、人間関係や社会性の基礎となる経験を積めるように支援します。 ・一人で、相手と一緒に（大人、こども）、集団で取り組むことを活動の中で取り入れ社会性、対人関係の育ち、芽生えを支援します。 								
家族支援	保護者の困り事や悩み事の軽減 きょうだい児の通園時間での預かり 親子療育を通して、その場での助言、援助（子育てサポート） 保護者プログラム（懇談会・学習会）個別面談（家族支援）				移行支援		個別面談での進路相談 就学に関する情報提供			
地域支援・地域連携	園訪問支援 保育園、幼稚園の職員の見学 学校訪問 地域の支援級、支援学校 職員の見学受け入れ 民生委員・児童委員の見学受け入れ センターとしての地域講座の実施等				職員の質の向上		療育センター研修（必須研修、新人研修、AED ケース検討等） 四療育研究発表会 通園研修 外部研修への参加等			
主な行事等	家族参観 随時受け入れ・土曜日年2回 遠足 ファミリーコンサート 親子で遊ぼう会 あきまつり 成長お祝い会、卒園式									